

「チャレンジする中小企業 アシストする中小企業診断士」

診断かがわ

2015年 夏号 NO. 65号

(2015年9月5日発行)

[主要目次]

- ◆ 第4回香川県協会総会・・・・・・・・・・ 1
- ◆ 県協会主催経営セミナー・・・・・・・・・・ 2
- ◆ 管理者課題別研修の感想・・・・・・・・・・ 4
- ◆ 会員便り「徒然のままに」・・・・・・・・・・ 5
- ◆ 新入会員自己紹介①・・・・・・・・・・ 6
- ◆ 新入会員自己紹介②・・・・・・・・・・ 7
- ◆ 新入会員自己紹介③・・・・・・・・・・ 8



経営セミナー
(2015年1月31日)

一般社団法人 香川県中小企業診断士協会

〒761-0301 香川県高松市林町 2217 番地 15 香川産業頭脳化センター402号

TEL 087-814-6456 FAX 087-840-0321

ホームページ <http://www.shindan-kagawa.org>

メールアドレス mail8@shindan-kagawa.org

発行人	会長	山下 益明
編集人	広報企画事業部	梅澤 秀樹
〃	〃	立川 敦史
〃	〃	溝淵 善彦
〃	〃	森 昭博

第4回 香川県中小企業診断士協会 総会

一般社団法人 香川県中小企業診断士協会
理事 立川 敦史

2015年6月13日16時より高松サンポートホール高松の会議室において、第4回総会が開催されました。一般社団法人移行後、第4回目の総会です。

山下会長のあいさつを皮切りに、議事は無事に進行いたしました。協会加入の永年表彰として、大地 康弘先生が表彰されました。

最後に山下会長より、香川県中小企業診断士協会の今後の方針が明示され、さらなる協会の発展に向けた取り組みを一致団結して行っていく意向を確認しました。



永年表彰(大地 康弘会員)



新入会員(西岡 昭彦会員)



新入会員(山下 晶子会員)



新入会員(玉井 邦芳会員)



企業内診断士から最新の業界情報について

「生の」お話をうかがう!!

一般社団法人 香川県中小企業診断士協会
会員 岩間 隆資

2015年1月31日(土) 15:00~16:50 サンポートホール高松 63 会議室にて、企業内診断士のお二人の先生から、「食」に関連する業界情報について講話をいただきました。

1. 「食品卸業界の動向」伊藤忠食品株式会社 黒田 順之先生

卸業界の勢力図・業界の特徴・卸の機能をはじめ、PB・ネット通販・物流・賞味期限問題・大手流通小売の動向などの旬のネタもまじえながら、わかりやすくご解説いただきました。大手流通小売も地域に根差した品揃えを志向していることから、地域の中小企業のビジネスチャンスが膨らんできていることがうかがえました。

聴講者より、商品を生供給する中小企業の立場から、需給調整など供給責任を果たすためのSCM上の課題について質問がありました。私の個人的な気づきとしては、ネット販売との比較の中で、リアル販売の持つ強みとして、「シーン提案」「ライフスタイル提案」が可能である、という点でした。

あるテーマにもとづいて商品をアソート(品揃え)し、店頭・売場で演出・訴求することにより、単品検索・推奨型のネット販売では実現が難しい需要創出が可能になるというお話が、大変印象に残りました。

2. 「農協改革について～情勢報告～」JA高知中央会(当時)中村 文彦先生

そもそも農協とはどのような組織か、安倍政権における農協改革とは何か、現在までの経過と今後の予想される流れ、規制改革会議の案が通った場合の想定される影響など、ニュースの表面だけをなぞっては理解できない本質部分について解説をいただきました。

まず、農協の組織形態は協同組合であり、株式会社のような上意下達のピラミッド型組織ではなく、民主的運営(一人一票の原則)や加入脱退の自由など協同組合原則にもとづくボトムアップ型であること。また、組織の目的は、株式会社の営利目的(利潤の追求)とは異なり、組合員の生産と生活を守り向上させること、などを教えていただきました。

一方で、JA全中の会計・業務監査権限をなくすなど、さまざまな改革の方向性についての意見・答申が出ていることをご紹介いただきました。地域産品や輸出等の需要の高まりを背景に、全国の地域農協がいかに販路開拓や生産性向上を成し遂げ、各農業者の所得向上につなげていくことができるのか、そしてその支援に、中小企業診断士のスキルはどのように活かせるのか、について考えさせられました。

REGISTERD MANAGEMENT CONSURUTANT REPORT

両先生のプレゼンの内容は大変興味深く、企業内診断士ならではの情報・視点を得ることができる貴重な機会となりました。また会場には、診断士の先生方の他にもさまざまな業界の方々が見えられており、関心の高さがうかがえました。

プレゼン内容とは別に、黒田先生は装飾を排したモノトーンのパワーポイント、中村先生はワードのレジュメとホワイトボード板書の併用と、お二人のプレゼンスタイルのシンプルさが、内容をストレートにわかりやすく伝える効果を生んでいました。普段、写真やアニメーションなどを濫用しがちな自身のプレゼンスタイルを見直すための参考にさせていただきたいと感じました。

黒田先生、中村先生、そしてセミナーの準備運営に携わられた先生方に感謝申し上げます。ありがとうございました。



食品卸業界について熱く語る黒田会員



中村会員が農協改革の実情を報告



管理者課題別研修(人間力向上研修)に参加して

株式会社 J A 香川県ライフサービス
総務部企画課 後藤 浩一

私は社会人 10 年目で、主に企画業務、システム管理業務、採用業務に携わっています。これまでも、人事や総務、システム管理などの仕事に携わり、『人材育成』や『コミュニケーション能力』『報連相』『業務改善』などに関連した知識を学んできました。

まずは、今回の「人間力向上研修」に参加したきっかけについてお話します。

今年の 7 月下旬に弊社で管理職候補の育成を目的とした中堅社員研修を開催し、山下先生に稲盛和夫氏の著書『生き方』から「人間力」について講義していただきました。その際、私自身もその内容に大変感銘を受け、「もっと人間力について学びたい」と思いました。そこで山下先生に、今回の研修をご紹介いただいた次第です。

“人間力を高めることで仕事力を高めるとともに、充実した人生を送る”

研修当日は私を含めて 5 名の受講生が参加しました。皆さん初対面ということもあり最初は緊張していました。冒頭の自己紹介だけでなく、研修のセッション毎に感想や質問などの振り返りを行い、全員に発言する機会が与えられたため、徐々に緊張がほぐれていきました。そして終盤では、皆がテーマに対して積極的に発言をするようになっていました。

何より山下先生が『生き方』について事例も交えながら、わかりやすく説明してくれたことが大きいと思います。

研修最後の振り返りでは、それぞれの気付きや、今後さっそく実行することを皆の前で具体的に発表しました。私の場合は「仕事を通じてさまざまなステークホルダーと関わる機会があるため、人材育成や企画立案などの日常業務において人間力を意識し、しっかりと実践したい」という内容を発表しました。

また、今回の研修ではグループディスカッションを通じて他の受講生と異業種交流を行うことができました。皆さんがそれぞれの業界で努力されていることや苦勞されていることを知り、私自身も社会人として大変良い刺激になりました。受講生の皆さんとは、今後もプライベートで情報交換を続けたいと思います。

管理者課題別研修では人間力以外のテーマでも研修プログラムが用意されているため、今後も研修に参加して自己啓発に努め、会社を通じて社会に貢献できるよう成長したいと思えます。この度は研修の機会を与えていただきありがとうございました。



会員便り 「徒然のままに」

有限会社正木鉄工所
代表取締役社長 正木 利明

中小企業診断士の資格を取った年に、香川県中小企業診断士協会に入会させていただき、在籍年数からだけだと立派なキャリアなのですが、診断実績のない企業内ペーパー(?)診断士です。

会社の方は、そろそろ落ち着いて経営に当たりたい年齢と思いつつ、あいもかわらずバタバタとしています。バタバタ具合と売上が比例関係にないのが辛いところです。けれども落ち込まずに一層とあたふたとして一日が終わっています。

今まで当社では、幸いなことに世間様が不景気な時にも公共投資などで潤ってきておりました。残念ながら、ついにそのようなありがたい景気循環も数年前に終わり、不景気の荒波をかぶっています。冷たいこと、冷たいこと。このような環境の中で、今年長年の懸案であった、高松工場と丸亀工場の移転統合を控えております。ここに至るまで、周りの多くの関係者の方々に助けられ何とか道筋ができました。

不思議なもので理屈ではない、人の縁のありがたさを噛みしめています。

個人的には、去年の5月に一人娘に初めての女の子が生まれまして、爺さんになりました。まだ、五十代の若者(?)ですので、現実感がありません。周りからは、「ヨチヨチ歩きでくると、可愛くてたまらんぞ」といわれ、「そんなことはあるまい」と思っていました。ところがところが、可愛いなのなのなの!!

休日に会社で、孫の写真パソコンで大量に印刷してニヤニヤしています。写真モード印刷したもので、半日かかりました。バカな爺さんです。

生まれた時は、母親に似ていた孫娘が、最近は何だか父親(婿殿)似てきて、少し複雑な思いをしています。

物質的には恵まれている今よりも、良き昭和時代の家族の在り方をベースにした生き方が、何だか人間的で本来の生き方ではないかと。マスコミなどを賑わしている事件などを見て、ふと思いを巡らせるこの頃です。



新入会員自己紹介

一般社団法人 香川県中小企業診断士協会
会員 山下 晶子

はじめまして、本年2月1日に香川県中小企業診断士協会に入会させていただきました。1968年高松生まれの丸亀育ち、生粋の讃岐人です。年齢だけはベテランなのですが、昨年8月に中小企業診断士に登録した新人です。

私は現在、高松にある「みどり合同税理士法人グループ」という会計事務所を母体とした企業に勤務しております。主に中小企業に対して、会計業務・税務申告から経営コンサルティング等の経営支援サービスを提供しており、私は経営コンサルティング、社内の経営企画、営業支援、広報活動と幅広く担当しております。現職に就く前は、経理事務、大手電機メーカーのITシステム営業・導入支援を経験しました。

私が、中小企業診断士という資格を知ったのは、第2子の育休から復職した10数年前に遡ります。その頃、コンサルティング経験者や元金融機関のスタッフが入社し、経営コンサルティング部門が発足し配属されたことがきっかけです。

経理や会社の業務の効率化、IT化といったコンサルティング分野に関しては経験もあり、それなりにこなしていたのですが、その頃は企業再生案件も多く厳しい話になることもしばしばでした。経営者や金融機関の方と接しているうち、自分のスキルや知識が足りないと感じるようになっていました。

そのころ専門性の高いベテランの中小企業診断士の方と一緒に仕事をすることがあり、その方のスキルの高さ、仕事に対する姿勢に感銘を受け、憧れるようになりました。当時はコンサルタントの補助的な仕事が主でしたが、その診断士の方に「君は診断士の仕事に向いている」といわれたことが嬉しく、また上司からも診断士の受験を強く勧められたこともあり、同僚と勉強を開始しました。しかし地元には受験校もなく、通信教育などを利用しながら合格までには8年も掛かってしまいました。ちょうど2人の子供も保育所～小学校と手がかかる頃でしたし、育児と仕事の両立の上に受験勉強はなかなかハードでした。

念願だった香川県中小企業診断士協会に入会させていただき、先輩方にご指導いただきながら、会員の皆様と活動できることが楽しみです。

今後は地元の中小企業の方々に頼られるような診断士、女性ならではの診断士活動ができればと考えています。

会員の皆様、よろしくご指導ご鞭撻をお願いいたします。



診断士10年生 入会のあいさつ

一般社団法人 香川県中小企業診断士協会
会員 西村 修造

今年2月に入会しました西村修造です。簡単に私の略歴を紹介します。

私は、1955年に香川県綾歌郡綾南町昭和に生まれ、綾南中学校を経て、高松第一高校に入学し、法政大学に進みました。卒業後、カネボウ化粧品に入社して営業を3年、経理関係を20年、総務関係を10年間経験し、2005年度に退社して、松山で独立開業しました。独立して、すでに10年を経過しており、年数的にはベテランの域に達しています。

独立後1年間は、労働局の調査員等をしてしながら、生計を得ておりました。2006年度より、国の施策である地域力連携拠点事業が始まり、愛媛県の八幡浜や新居浜商工会議所のアドバイザーとして仕事にめぐまれました。

2年前からは国のアドバイザー事業も縮小し、少しずつではありますが、会議所でのつながりから民間契約への取引ができるようになりました。

当初の開業動機は、民間企業との顧問契約として仕事をするのが念願でありました。ところが、窓口相談の仕事が常時ありましたので、民間開拓はしてこなかったのが現状です。私も今年60歳を迎え、残りの人生を初心に戻り、民間企業への開拓に力を向けるように決意しました。そのために、コンサルタント養成講座を受講し、経営コンサルタントとはどのような仕事をすべきか、仕事を獲得する方法等の基本的な知識やノウハウを習得することから始めようと思いました。

その講座を香川県診断士協会で開催しているということで、すぐに参加しました。香川では、診断士の年収目標を高額に設定していることに驚きと感嘆がありました。私は、年収よりも、企業の成果を上げられるように支援して差上げることができれば、収入は後からついてくるものと考えています。そのためには、知識・スキルの習得や実地経験を積むことが必要だと考え、香川県診断士協会からそのチャンスを与えていただけることを知り、さっそく入会しました。

松下幸之助の「志を立てるのに、老いも若きもない。そして志あるところ、老いも若きも道は必ず開けるのである」との言葉を信じて、仕事への意欲と情熱を持っているうちは、自分の好きな分野で、知識と経験を積んで、経営者のビジョンを達成するための支援者として診断士として頑張っていきたいと考えております。

また山下会長から研修の中で、「スキルも大切だが、人間の器を広げるための人格形成が、コンサルタントとして長くやっていくには、必要なことである」と教えを受けました。

経歴は長いですが、まだまだ未熟な面もたくさんありますので、ご指導ご支援よろしくお願いたします。



新入会員自己紹介

一般社団法人 香川県中小企業診断士協会
会員 玉井 邦芳

このたび、2015年4月をもって、香川県中小企業診断士協会に入会させていただきました。玉井邦芳(たまいくによし)と申します。

私は中小企業診断士であるとともに弁護士として、2007年に香川県弁護士会で弁護士登録をして以降、弁護士として活動してまいりました。

2007年から2年間は既存の法律事務所に所属する勤務弁護士として活動し、2009年からは高松市内において自ら法律事務所を立ち上げて独立し、現在もその法律事務所を運営しています。

これまで弁護士として取り扱ってきたのは、実に多種多様な個人、法人の案件なのですが、例えば、企業案件については、破産・再生、(実態はオーナー一族間の争いである)会社関係訴訟・相続紛争、損害賠償請求、債権回収、契約書レビュー、法的スキーム作成などといった案件です。

弁護士である私が中小企業診断士になろうと思ったきっかけなのですが、私が弁護士の仕事にも慣れ、弁護士会内でも中堅と呼ばれる年次に差しかかったとき、ふと「今までと別の仕事はできないか」「別のサービスをクライアントに提供できないか」と考えました。

一般的には、弁護士の仕事は紛争・トラブル解決、つまり、(表現が適切ではないかも知れませんが)「後ろ向きの仕事」が中心であり、私は本来の弁護士の仕事ではない「前向きの仕事をしてみたい」、また「後ろ向きの仕事と前向きの仕事と一緒にあった新しいサービスができないか」と考えるようになったのです(なお、「後ろ向きの仕事」が重要ではないという趣旨ではありません)。

その後、「前向きの仕事」を行う経営コンサルタントとしての中小企業診断士とその資格のを知り、資格取得を目指し、幸いにして1回の受験で合格することができ、現在に至っております。

今後については、弁護士としての経験を生かしながら、中小企業診断士として活動を行い、あるいは法律の専門家として他の中小企業診断士のお手伝いをしていくなかで、有用なサービスをクライアントに提供できればと考えています。

今後とも、何とぞよろしくお願いたします。

診断かがわ第65号(夏号)

2015年9月5日発行

一般社団法人 香川県中小企業診断士協会

〒761-0301 香川県高松市林町 2217 番地 15 香川産業頭脳化センター402 号

TEL 087-814-6456 FAX 087-840-0321

ホームページ <http://www.shindan-kagawa.org/>

メールアドレス mail8@shindan-kagawa.org

発行人 会長

山下 益明

編集人 広報企画事業部

梅澤 秀樹

” ”

立川 敦史

” ”

溝渕 善彦

” ”

森 昭博